

SY1-3

自閉症スペクトラムの早期支援としてのJASPERプログラム

浜田 恵

名古屋学芸大学 ヒューマンケア学部

他者と一緒に何かを行ったり、他者と気持ちや出来事を共有したりするといった社会的な対人関係は、共同注意の発達から始まる。共同注意とは、二者がひとつの共通した対象に注意を向けることで、視線や指差しなどを用いて、ある対象を他者と共有しようとする行動である。多くの子どもでは、1歳を過ぎた頃から見られ始め、生後12～18ヶ月の時期には、乳幼児は他者が意図的な行為の主体であることを理解するようになるとされている。さらに、共同注意の出現がその後の言語発達を予測するという報告 (Mundy et al., 1990) もあり、共同注意を育てることは子どもの社会性や発語を促す重要な視点と言える。自閉症スペクトラムは、この社会性の困難を中核症状のひとつとしてもっている。

JASPER とは、共同注意を中心に、対人関係の苦手な子どもが他者と物事を共有していくことを支援するための技法である。共同注意 (Joint Attention)、象徴遊び (Symbolic Play)、関わり合い (Engagement)、情動調整 (Regulation) の頭文字をとったもので、子どもの自発的な遊びを通して、共同注意や要求行動に働きかけ、他者との関わり合いを育てることを目指している。カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (University of California, Los Angeles: UCLA) の Connie Kasari 教授らによって開発された。臨床研究の効果検討において最も有効性が認められている研究方法である、ランダム化比較試験 (Randomized Controlled Trial: RCT) を用いた効果測定でその効果が認められている (Goods et al., 2013)。

演者らは、2015年より JASPER の開発者である Kasari 教授のもとで研修を受け、JASPER プログラムの日本における導入を試みてきた。演者ら臨床心理士による自閉症スペクトラムのある幼児に対する実践だけでなく、対人関係の苦手さのある子どもを日常的に支援するという視点から、公立保育園における保育士による実践も行っている。実践にあたり、子どもの共同注意と遊びのアセスメントとして、比較的簡易に行える SPACE (Short Play And Communication Evaluation) (Shire et al., 2016) も導入している。事例としてはまだ少数であるが、子どもの他者への関わりが変化していることを実感している。

そこで本発表では、JASPER プログラムの実践と早期支援の可能性について報告する。